

社会は、先生が一時間にわたり大演説だった。どれほど、僕の記憶に残っているかは、疑わしい。今日も、平凡な学生生活。

三時三十九分のバスに乗ったら、生徒で一杯。貸切りバスみたいだった。

四時二分の急行に乗れるか、乗れないかでヒヤヒヤだったが、運よく乗れた。

もっと幸運だったのは、後ろの方の車両に乗ったせいだ、すぐに座れた事である。

しかし、あの子は、見かけなかった。目が重く、眠かった。

家に着くと、自分の部屋へすぐ行き、服を着替えた。

窓から、冬景色の伏見桃山の山の方を展望する。

去年の夏、よく桃山御陵に行った事を思い出した。

御陵の前に立って、僕は何の為に勉強するのかと、明治天皇に尋ねた事があった。「将来の為に」と、心の中に、言葉が返って来た。それじゃあ、将来僕はどうなるのかと、さらに尋ねた。「人は自分のなりたいた人間になれる。」と、風のささやきを聞いた。炎天下、御陵の水は冷たくておいしかった。階段の上の明治天皇陵から見た、宇治の平原の景色は素晴らしい。暑いが、丁度、木陰には、よい風が来て、絵を書いたり、読書したりするには最適だった。そばで、階段を登り降りして、足を鍛えている人がたくさんいた。その中で、トレーニング姿の女の子が一人よく来ていたのを思い出した。僕の描く絵を横目でよく見ていた。いつの間にか、ひと夏が終わった。

今は真冬で、寒くて、様子がまったく違うだろう。